

INSTRUCTIONS



**OLYMPUS**

***ST 2.8***

## お買上げ有難うございます

あなたのお手にしているこの新鋭機オリンパス S II 2.8 は、流麗なデザインと、優れた数々の特色を誇るオリンパススーパータイプの1つで、レンズのみが5枚4群構成のEズイコー F 2.8,  $f=48\text{mm}$  の標準組合せにかわったものであります。

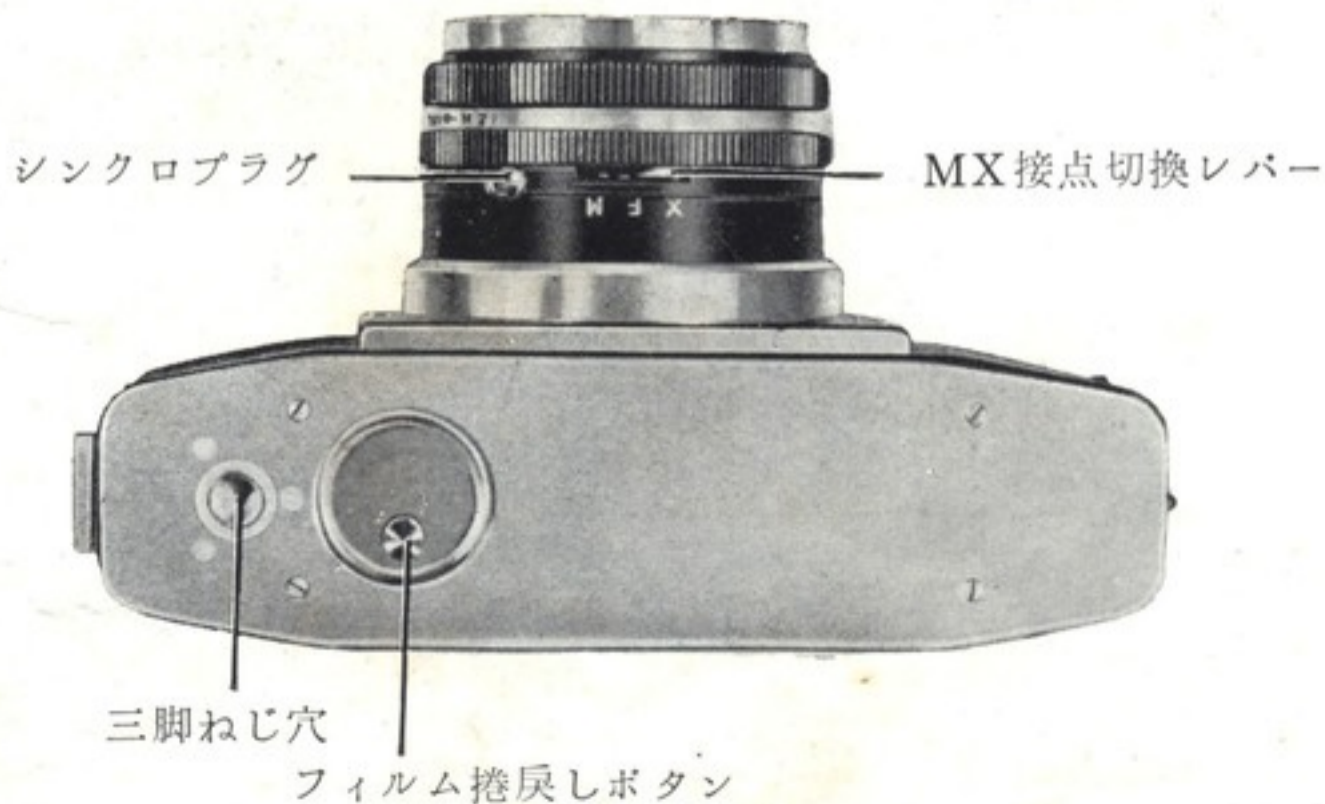
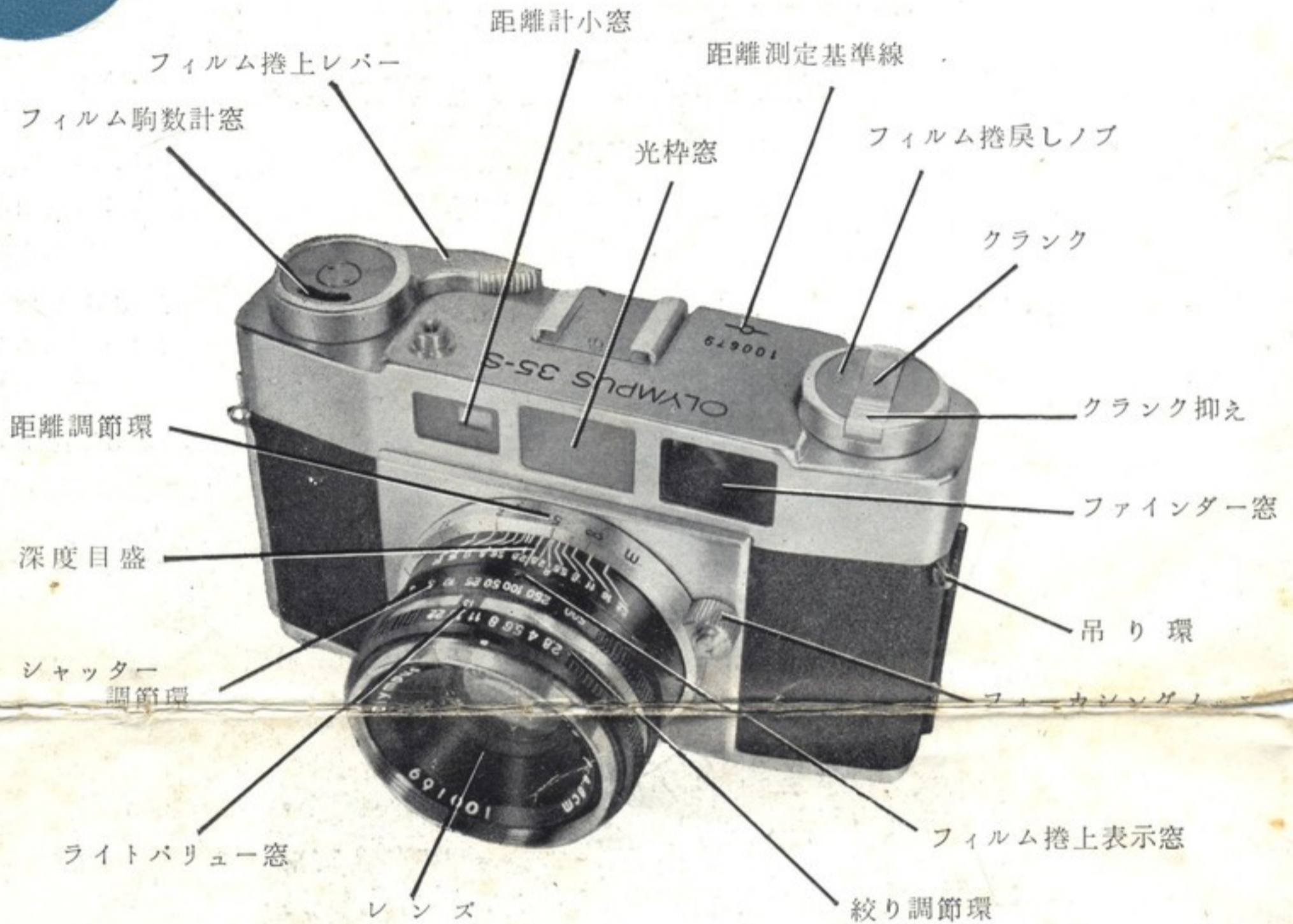
大口径レンズ流行の時代ではありますが、伝統あるズイコー設計技術の粋を盡したEズイコーの真価は、必ずあなたの満腔の信頼をかち得るものと思います。

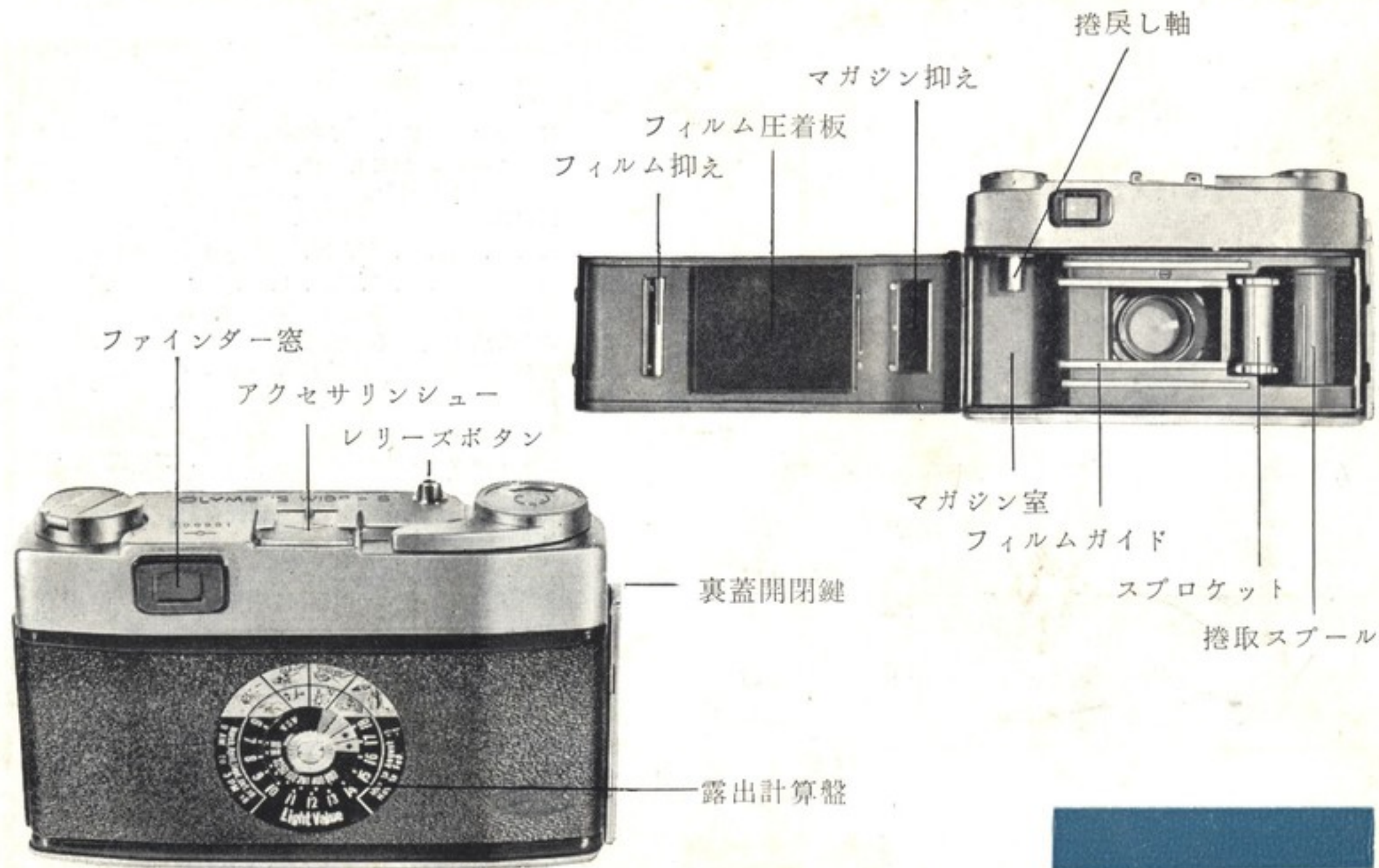
御使用に先立ち説明書を御熟読の上、常に最高の性能を発揮していただくようお願い申し上げます。

## 目次

表紙	1
前文(目次)	2
各部名称	3~j
主要諸元	6
Eズイコー F2.8	7
フィルムの装填	8~9
シャッター調節	10
絞りの調節	10
ライトバリュウについて	11~15
ライトバリュウ一覧表	12
フリーライトバリュウシステムとは	13
ライトバリュウの決定	14
フリーライトバリュウシステム による露出の決め方	15
フィルム捲上とシャッターチャージ	16
フィルム捲上表示窓	17
フィルム捲戻し	17
御注意	17
光柵ファインダー	18
ピントの合せ方	19
R目盛について	19
フラッシュ同調撮影	20
専用附属品	21
被写界深度	22~23
速写ケースの扱い方	24
御注意	25
品質保証	25
裏表紙	26

各部名称





捲戻し軸

マガジン抑え

フィルム圧着板

フィルム抑え

ファインダー窓

アクセサリシュー

レリーズボタン

マガジン室

フィルムガイド

スプロケット

捲取スプール

裏蓋開閉鍵

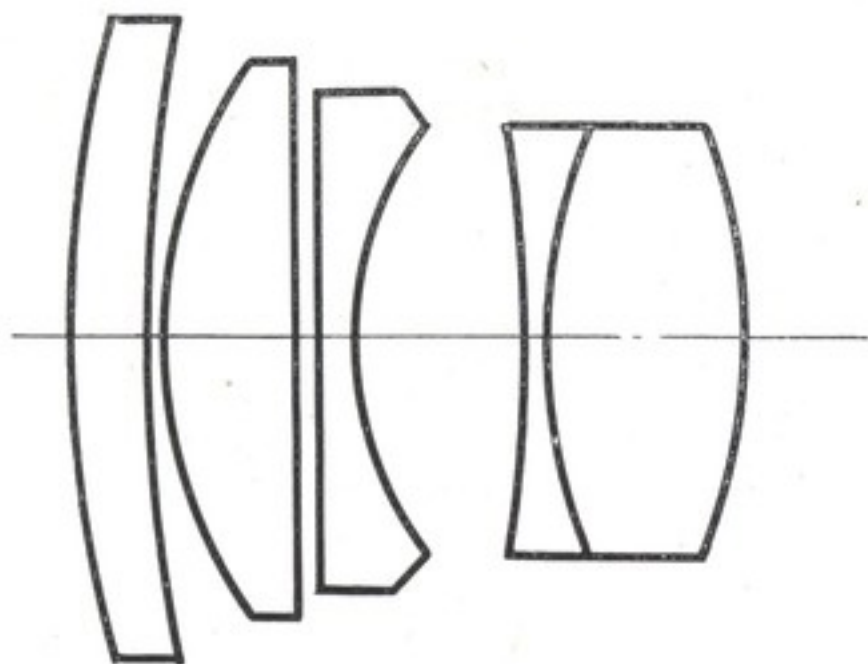
露出計算盤



## 主要諸元

レンズ	Eズイコー F 2.8 f=48% 5枚4群構成
シャッター	セイコーシャ MXL B. 1~1/500秒 フリーライトバリュースystem MFXフルシンクロ ドイツ型ブラッグ
絞り目盛	2.8, 4, 5.6, 8, 11, 16, 22 クリックストップ
距離目盛	(メートル) 0.85, 1, 1.2, 2, 5, ∞ 赤外線写真撮影用距離補正目盛付 (R目盛)
距離調節 ファインダー	二重像合至式一眼連動距離計 直進ヘリコイド 距離計共通 プライツフレームファインダー パララックス自動匡正装置付 倍率 0.6×
オートマティック ワインディングシステム	ワンショットレバーによる巻き止め, 二重露出防止, セルフコッキング, レバー引出し式 (45°), 操作角度 120°, カウンター自動復元, 多重露出可能
其の他	クランク式フィルム巻戻し装置, 蝶番式裏蓋開閉 図解ライトバリュース式露出計算盤付, フィルム圧 着板, 距離測定基準線表示, 吊り環 三脚ねじ JIS 1/4" 小ねじ レリーズねじ JIS ねじ込み フード 45% かぶせ型 フィルター 43% ねじ込み型 大 き さ 72(厚)×82(高)×128(幅)% 重 量 660gr.

E ズイコー F 2.8 f=48mm



5枚4群構成図  
E Zuiko F 2.8 f=48mm

高屈折ガラスの採用によって、新にズイコーレンズ群に加わった新偉力です。

その設計は図の如くで、ライカ用準広角レンズとして賞讃されたズイコー F 2.8 f=40mmの発展形式ですが、コマ及び色収差に格段の進歩が認められ、周辺光量が増大し、絞りによる焦点移動も極めて僅かであります。

## フィルムの装填

- (1) オリンパス S II 2.8 には35ミリパトローネ入りフィルム，又はオリンパスマガジンP型に装填された35ミリフィルムを使用します。
- (2) 先づ裏蓋開閉鍵を引き出しますと裏蓋が開きます。
- (3) フィルムを写真のように右手に持ち，カメラを左手で持って，捲取りスプールの溝に写真の矢の方向にフィルムの先端を十分に差し込みます。
- (4) 捲戻しノブを押し出し，パトローネ（又はマガジン）をマガジン室に収め，次いで捲戻しノブを左右に少しづつ廻転し乍ら押し込みますとカチリと入ります。
- (5) 次に捲戻しクランクを起し，パトローネを抑え乍ら，クランクを矢印の方向に静に廻転してフィルムのタルミを取り，なお注意してフィルムを緊張させ乍ら少し戻しますと，スプロケットの歯の1つにフィルムのパーフォレーションの孔がかかります。



(6) この状態で裏蓋を閉じ、鍵板を元通りに押し込みます。

(7) フィルム駒数計

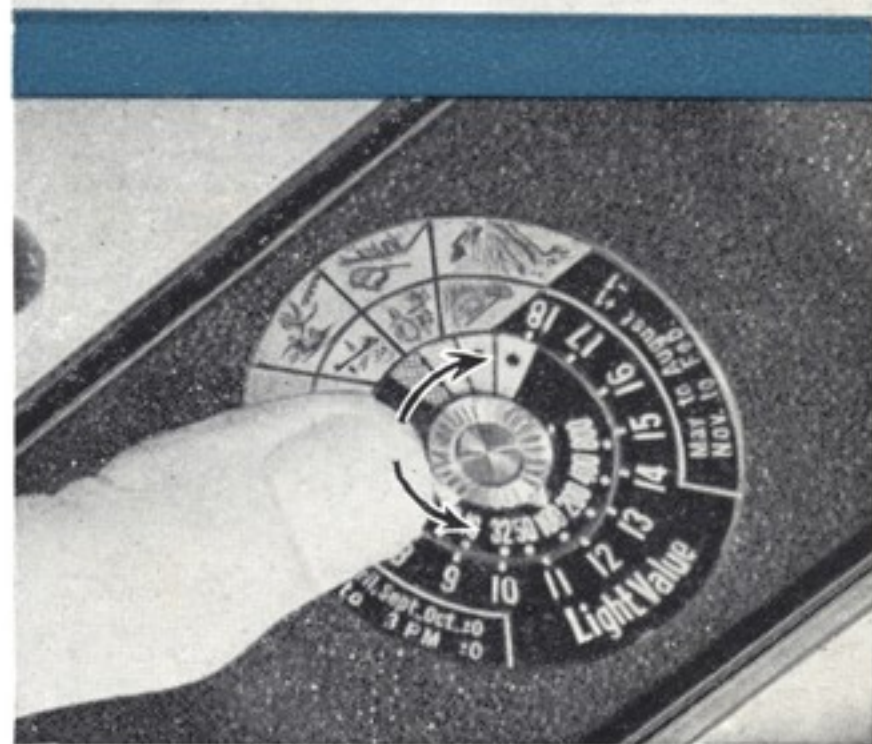
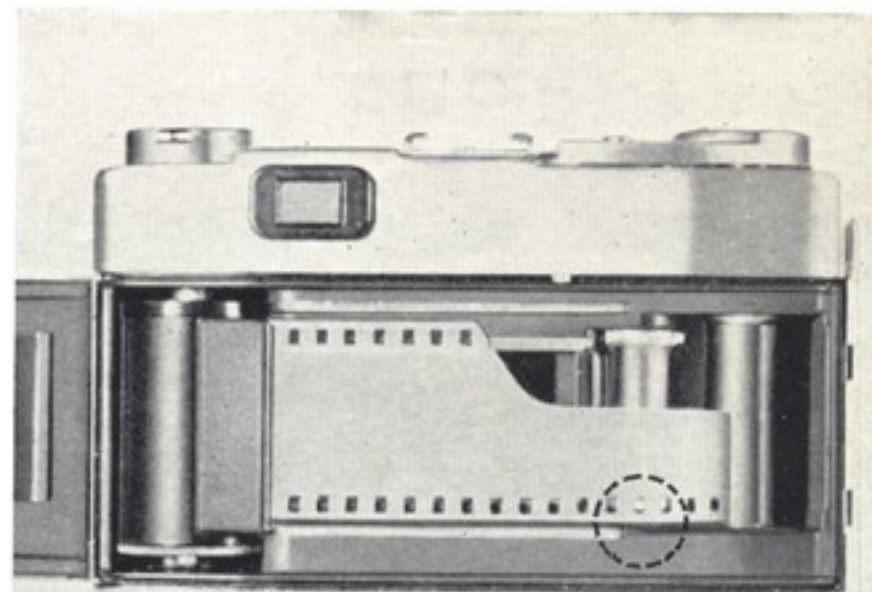
フィルム駒数計の窓を御覧下さい。窓の中央にある赤い▼はSを指しています。このSはスタートの意味です。

ここで巻き上げレバーを止るまで廻転してリリースボタンを押し、2度この操作（空写し）を繰り返しておきます。第3回目には駒数計は1を指し、最初の撮影が可能です。この空写しの捲上の際、必ず捲戻しノブが捲き戻しと逆の方向に廻っているかどうかを確認して下さい。このとき若しこのノブが逆に廻らないとすると、それはフィルムが具合よく捲取られていない証拠ですから装填をやり直さねばなりません。

(8) 裏蓋上にある露出計算盤の中央ダイヤル外側の小さいつまみを廻転して三角の指標を今装填したフィルムのASA感度に合わせて下さい。忘れず合わせておきまないとあとで露出の計算が出来ません。

これでフィルムの装填は完了です。

太陽光線その他直射光線の下でフィルムを装填したり取り出したりすることはやめましょう。





## シャッターの調節



シャッター速度は調節環を廻して必要な速度の目盛を中央の指標に合わせて決めます。シャッターはセイコーシャMXL、速度段階は、B、1、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{5}$ 、 $\frac{1}{10}$ 、 $\frac{1}{25}$ 、 $\frac{1}{50}$ 、 $\frac{1}{100}$ 、 $\frac{1}{250}$ 、 $\frac{1}{500}$ 秒で各目盛に於いてクリックストップになっておりますから、不用意に調節環が廻る心配はありません。

シャッターは必ず速度目盛が正しくクリックで止まった位置で使用して下さい。

### バルブ露出

シャッター調節環のBは所謂バルブ露出のことで、Bを指標に合わせた場合はレリーズボタンを押せば、シャッターは開き、放すと閉じます。これは1秒以上の長い露出に使います。

## 絞りの調節

絞り調節環もクリックストップになっています。絞り段階は2.8、4、5.6、8、11、16、22の7つです。

絞り目盛はいわゆるF値で、レンズの有効口径がその焦点距離の何分の1かということを表した数字です。

従って絞り調節環を回転してある目盛を中央の白い点に合わせた場合、この目盛の数字が大きい程レンズの有効口径は小さくなりレンズを通過する光量は少くなります。

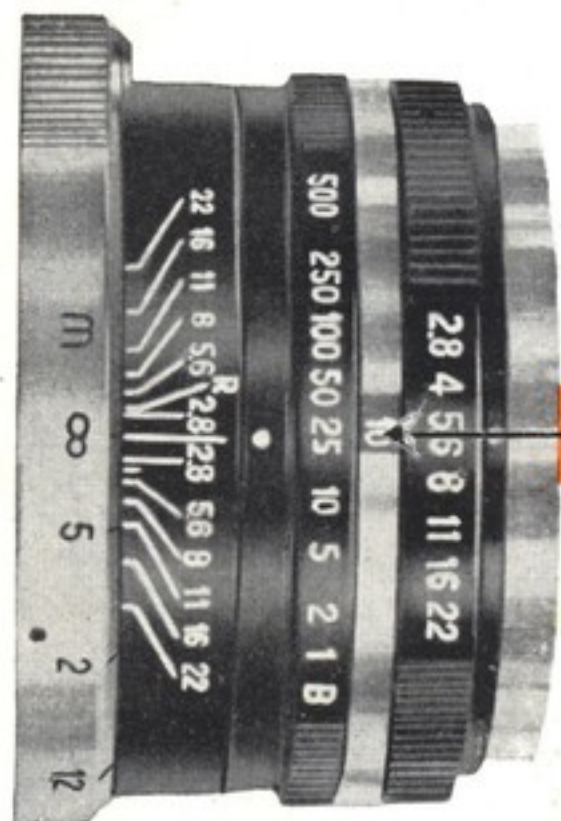
絞り目盛は1段数字が増す毎に光量が半分となるようになっています。



絞りの目盛と、シャッターの速度目盛の間の窓に出る黄色の数字。この数字はライトバリューと呼ばれる数字で、このカメラでは3から18まで目盛ってあります。又この数字はカメラ背面の露出計算盤にある6から18までの数字と同じ意味を持っています。

シャッター速度目盛を1に合わせ、絞り目盛を2.8に合わせて下さい。このときの窓の数字は3です。即ち、絞り F 2.8, 露出時間1秒はライトバリューで3ということになります。ここで絞りを2.8から順次に22まで変えて見ますとライトバリューは1つずつ増して9に至ります。絞りは1段で光量が半減するわけですから、光量が半減するとライトバリューは1つ増すということがおわかりでしょう。

今度は絞りを2.8にしたまま、シャッターの速度を変えてゆきます



## ライトバリューについて

と500までの間に、ライトバリューは12まで変ります。但しこの場合2は4, 250は11, 500は12と出ますが、5から100の間ではライトバリューの数字が窓に丁度出ません。それは絞りの方は、一つ毎に丁度半分づつになっていますが、シャッター速度の方は2と5, 10と25, 100と250の間が半分になっていないからでして、シャッター目盛が、1, 2, 4, 8, 15, 30, 60, 125, 250, 500となっていれば、

窓に数字がピッタリ出るのです。この場合にも時間が半分になる毎に、ライトバリューが1つずつ増すことがおわかりでしょう。

そこで絞りを F1, 露出時間を1秒としたときの数字を0として、絞りでも時間でも半分になる毎に数字も1つずつ増すように決めたのが、ライトバリューといわれるものです。

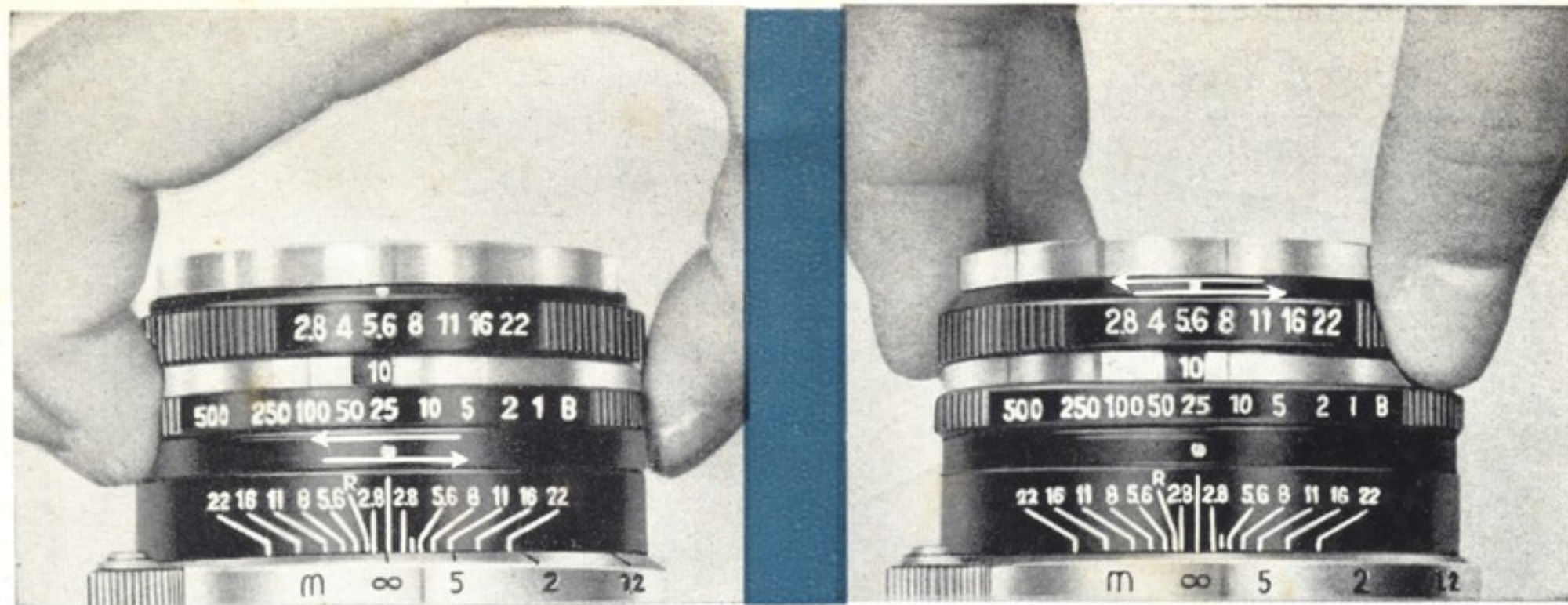
## 次の一覧表を御覧下さい

さてこの表のライトバリュ-10という数字を見て下さい。F2.8で $1/125$ , F4で $1/60$ からF11で $1/8$ , F16で $1/4$ , F22で $1/2$ まで7組の絞りと露出時間の組み合わせがあります。この7組のどの組み合わせをおえらびになっても、フィルムに与える露出は常に一定です。何故なら、露出時間が半減すると、絞りが開いて入ってくる光量が倍になっているからです。ここにライトバリュ-の意味があります。

それはライトバリュ-が同じなら露出は同じであるということです。

### ライトバリュ-一覧表

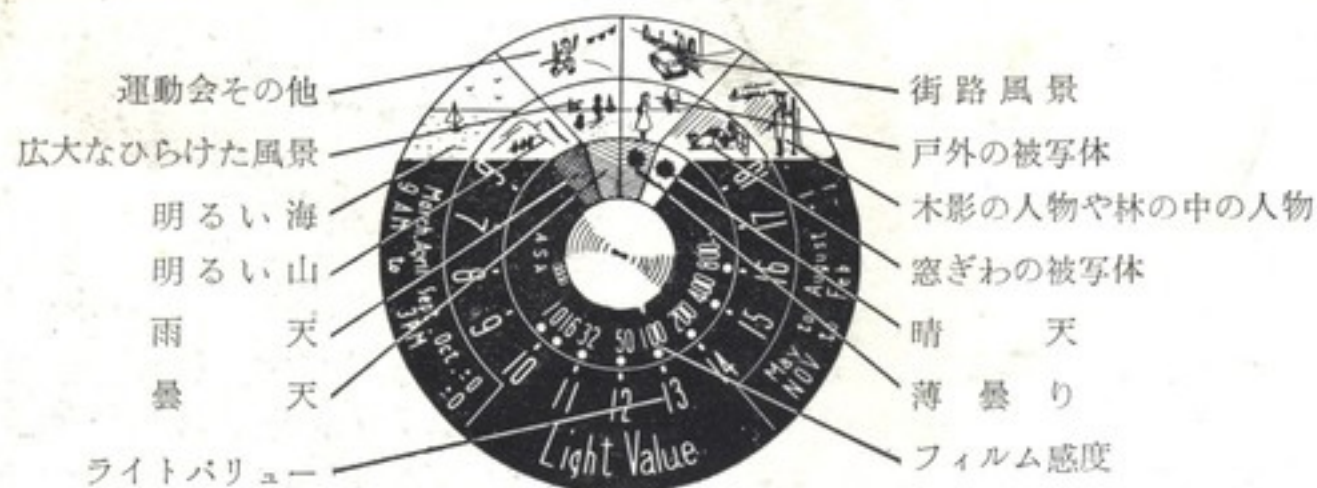
シャッター スピード 絞り	1	$1/2$	$1/4$	$1/8$	$1/15$	$1/30$	$1/60$	$1/125$	$1/250$	$1/500$
1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1.4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
2.8	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
4	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
5.6	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
8	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
11	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
16	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
22	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18



### オリンパス独特のフリーライトバリュースystemとは、

一般のライトバリュースystemでは、絞りとシャッタースピードの調節環が一緒に動き、ある決められたライトバリューの数字のままシャッタースピードを変えると自動的に絞りも変わり、又絞りを変えると自動的にシャッタースピードが変り、常に一定の露出が得られるようになっています。ですから一方だけ変える、即ちライトバリューを変える時には特にその連動を外す操作をしなくてはなりません。光線状態が一定である場合にはライトバリューは一定でよいわけですが、光線状態が変化する場合にはライトバリューは常に変えなければなりません。現実の撮影に、後者の場合が多いことを考慮して、特にこの連動機構を取り除き、ライトバリューを窓に明示し、絞り、シャッターを別々にも、又同時に思いのままに調整し得られるようにしたのがオリンパスのフリーライトバリュースystemです。これを駆使されるには、まず露出の計算又は測定から始めます。

## ライトバリュウの決定



カメラ背面の計算盤を使いましょう。さきにフィルム装填の際に、フィルムのASA感度に指標が合わせてあった筈です。さて計算盤中央のダイヤルを指の腹でまわして、外側の被写体の種類と、今の天候とを合わせて下さい。例えば中央右の写真のように、被写体が街頭風景で快晴だとしますと、ASA感度100を指す指標は、更に外側のライトバリュウを指しています。

即ちASA100のフィルムに対して、快晴の街頭風景はライトバリュウ14であるということです。但しこれは、日中大体午前9時から午後3時頃までで、季節的には、3, 4, 9, 10月のことです。11月から2月までは、14-1で13, 5月から8月までは14+1の15となります。

又9時前、3時過ぎというような朝晩にはその時刻によって手加減が必要です。ライトバリュウ式のライトメーターをお持ちの場合は勿論ASA感度によって正しいライトバリュウの数字が読みとれます。



## フリーライトバリュースystemによる露出の決め方

以上のようにしてライトバリューが決定したら、まず絞りでもシャッターでも、何れでもよいから調節してライトバリュー窓に決定した数字（例えば 10）を出します。ライトバリュー 10といたしますと (2.8~4)~100, (4~5.6)~50, (5.6~8)~25, (8~11)~10, (11~16)~5, 22に絞って2分の1秒と6つの組み合わせがありますが露出としてはどれでもよいのです。

ここで、絞りとかシャッター速度に希望がある場合には、改めて、その何れかに合わせます。そのときには、10を窓に出したまま、シャッターと絞りの調節環を同時に持って一緒にまわして、希望のシャッター、希望の絞りを出しますと露出を変えずにそれらのものが得られるのです。

又あらかじめ、絞りやシャッター速度に対する希望がある場合には、その絞りなり、そのシャッター速度なりに合わせておいて、次に窓に決定したライトバリューが出るように他の調節環をまわして合わせてもよろしいわけです。

例えば前記の場合被写体の関係で速度は 100 とあらかじめ定めてかかるなら、シャッタースピード 100 にしておいて、ライトバリュー 10 を求めます。このときは、絞り調節環をまわしてやればよいのです。

こうして写している場合、雲が来て太陽が蔭ったというときには、すばやく速度を 50 にして露出を多くします。雲が去ったら又 100 に戻します。こういう調節が逸早く出来るのがフリーライトバリュースystemの特徴です。



## フィルム捲上とシャッターチャージ

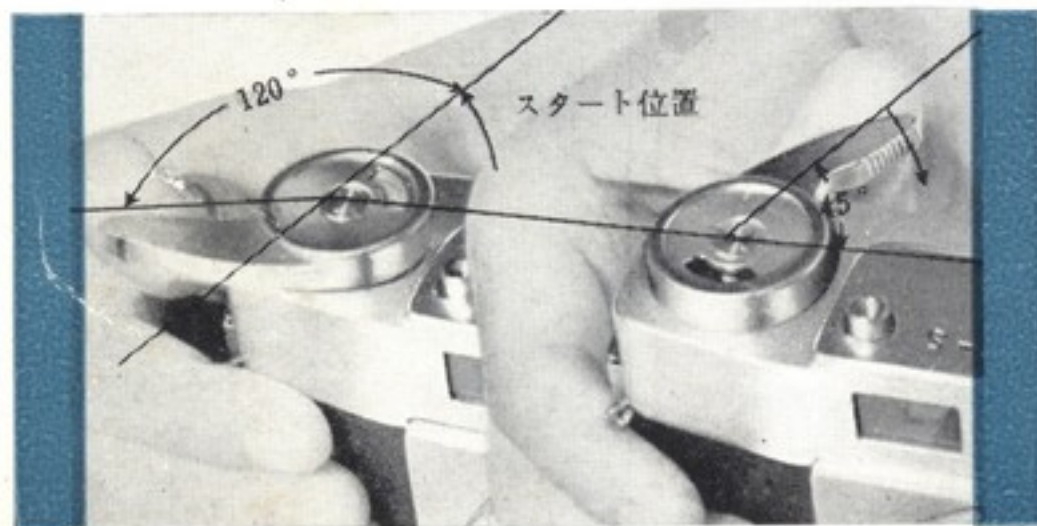
(オートマティックワインディングシステム)

フィルム装填の項で説明したように、フィルムの捲上は迅速撮影に便利なラピットワインディングレバーのワンストローク(120度)でフィルムが一駒捲上されると同時にシャッターもチャージされます。

従ってフィルムを装填し2度の空写しを行い3度目の捲上を行えば、フィルムの1番目が焦点面に出ると同時に、シャッターもチャージされています。

そこで露出を決め、ピントを合わせてリリースボタンをおせば第1回の撮影が出来ます。レバーは操作の途中では戻りません。必ず止まるまでまわして下さい。又一度まわしたレバーは、シャッターを切らない間は二度は操作出来ません。

フィルムの駒数計はレバーを一度操作する毎、即ち、一枚うつす毎に1目盛づつ進み、撮影が終りフィルムを巻き戻して裏蓋を開くと自動的にSに戻ります。この一連の機構をオートマティックワインディングシステムと呼びます。又このレバーは、操作を容易にする為スタート位置が写真のように45度の引き出し式になっています。



### 多重露出

フィルムの巻き上げとシャッターチャージが同時に行われますから不用意の二重露出ということはありませんが、特に必要があって二重露出を行う場合には、カメラ底部にあるフィルム捲戻しボタンを深し押し乍ら(2段目迄押し込んで)巻き上げレバーを廻転して下さい。この場合はフィルムは捲上られずシャッターのみがチャージされます。

## ● フィルム捲上表示窓 (赤窓)



表示窓

この装置によって、フィルムが捲上されているかいないかは一見して分り、シャッターチャンス逃す心配がありません。

## フィルムの捲戻し

フィルムを全部写し終えますと、捲上レバーは動かなくなります。

フィルムの捲戻しには、先づクラックを起し、カメラ底部にある捲戻しボタンを押すからクラックを矢印の方向に廻転します。



クラックの起し方は押え板を写真のように矢印の方向へ引きますとひとりでに起きます。

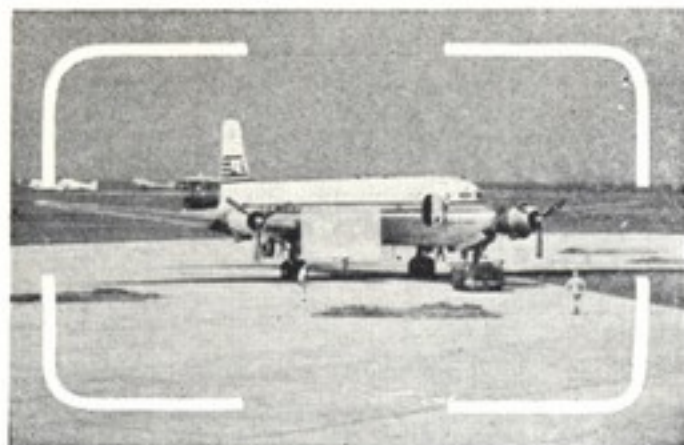
レバーを廻転し、フィルムが捲上られ、シャッターがチャージされると、鏡胴上部中央指標位置にある小窓に赤印が現れ、シャッターを切ると見えなくなります。

オリンパス SII 2.8 の捲上レバーは取扱上次の点に特に御注意下さい。

- ① 45° のスタート位置に引出したものは、押せば元に戻りますが、このスタート位置から操作途中に入ったものは止まるまで廻転させないと元に戻りません。必ず止まるまでまわして下さい。但しフィルムが撮影済みになって、レバーが操作途中で停止することがあります。こういう場合には二重露出のときと同様に底蓋上の捲き戻しボタンを深く押し乍ら、更にレバーを僅か捲き上げ操作しますと確実にもとに戻ります。操作途中のレバーを無理に押し戻そうとするとレバーがこわれます。
- ② シャッターは成るべく撮影直前に捲上る習慣をつけておくことをおすすめします。シャッターを長時間チャージしたまましておくことは、シャッター性能を何時迄も保つ為にはよくありませんし、又うっかりリリースボタンを押して無用な露出をしたりします。
- ③ レバーを廻転した後、即ちシャッターがチャージされた後でシャッタースピードを変更することは差し支えありませんが 1/10 ~ 1/25 秒、1/250 ~ 1/500 秒の間では機構上ギヤのかけ外しがありますのでひっかかることがあります。その場合には一度逆にまわしてから戻して下さい。



## 光柵ファインダー



ファインダーは、二重像合致式の連動距離計と共通になっています。また普通のニュートンファインダーの見にくさ、及び被写体画割の不明瞭をなくすために光柵ファインダーを採用しています。その特長は、接眼部が大きく見易いこと及び光柵が眼の位置によっても動かず、従って被写体を確実にフィルム面にキャッチできるということです。

更に大きな特色は、ライトブルー系の明色視野にくっきりと現れるこの金色のフレームが焦点調節と同時に自動的にパララックス（視差）を匡正することで、実視野に対するフレーム面積の大きさも極めて大きく正確であり、連動精度・見え共にこの種ファインダーの中では最高の性能を示しています。

ファインダーの光学系を立体図で示しますと図の如くになります。

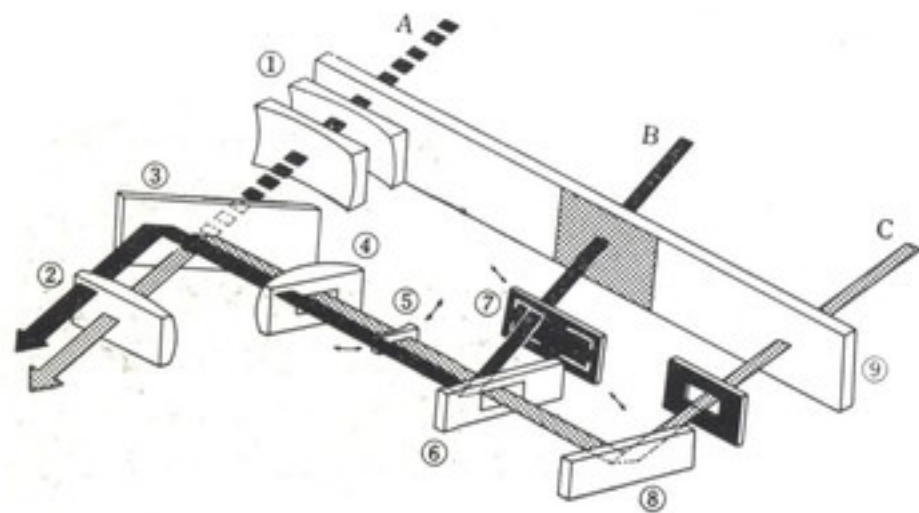
図を見ればおわかりのようにA・Cの光学系は距離計を構成し、B光路はファインダー視野にブライトフレームを浮かせます。

特にファインダー対物①は広角の視野を収差なく見得るように二枚の対物レンズを用いています。

光柵板⑦は焦点調節に従い矢印の方向に斜めに移動しパララックスを匡正します。

④の凸レンズはフレームの像を被写体の像と同位置につくるためのものです。

- ① 対物レンズ ② 接眼レンズ ③ 半鍍銀鏡 ④ 光柵用ルーベレンズ ⑤ 距離計移動対物レンズ ⑥ 光柵用全反射鏡 ⑦ 光柵板 ⑧ 全反射鏡（距離計用） ⑨ 窓ガラス



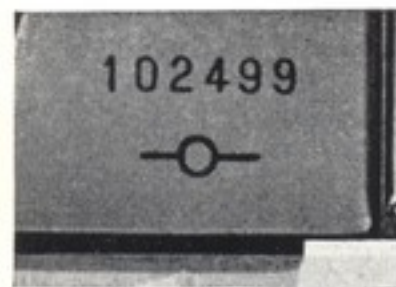
## ピントの合わせ方

フォーカシングは直進ヘリコイドによる距離計連動機構で行います。

距離計はファインダーと共通で、焦点を合わせると同時に構図の決定が出来る二重像合致式一眼連動距離計です。

調節方法は、ファインダー覗き窓を覗き乍らフォーカシングレバーを動かしますとファインダー中央の明るい部分に見える二重像の一方が動きます。この二重像の合致した時がピントの合った時です。その状態で指標の示す距離環の目盛を読めば、その時の被写体距離が分ります。

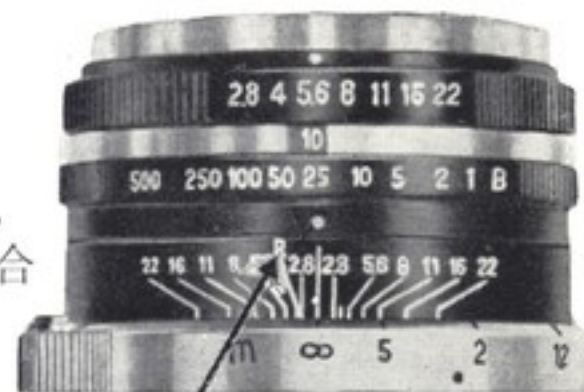
距離目盛はメートル目盛で、0.85, 1, 1.2, 2, 5 ∞ に目盛っており、ピントを合せた被写体とフィルム面との距離を表しています。



カメラ上部にある —○— 印は被写体とカメラの距離を測る場合の基点を示したものです。近接撮影で正確に距離を測る必要のある時はこの基準線からお測り下さい。

### R目盛 (赤外線写真撮影用距離補正目盛)

赤外線写真用フィルムを御使用の場合は、ピントを合わせてからその目盛をR目盛に合わせて下さい。



R 目 盛

## フラッシュ同調撮影

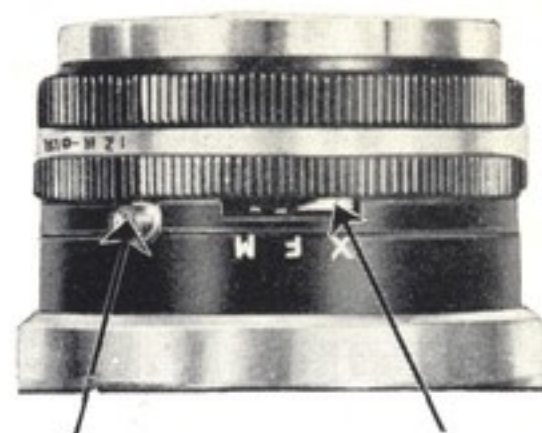
フラッシュバルブには、M、Fの2つのクラスがあります。Mバルブは電流を通じてから20ミリセカンド後に光量が最大になります。

Fバルブは大体10ミリセカンド内外で光量が最大になります。

この他クセノンガスの真空放電を利用したストロボライトがありますが、これは電流を通すと同時に瞬間発光をします。

以上の各フラッシュをすべて有効に活用する為にはシャッターで電流を通ずる時刻を夫々に応じて正確に調整しなければなりません。これの出来るシャッターをMXフルシンクロといいます。オリンパス S II 2.8 のセイコーシャMXLはそのフルシンクロシャッターです。次の要領でお使い下さい。

- (a) レバーをXに合わせておいた場合  
全速度X接点、即ちスイッチはシャッターのセクターが全開した時に入ります。  
この場合は  
ストロボには全速度同調  
Mタイプバルブでは1秒～ $1/25$ 秒まで同調  
Fタイプバルブには1秒～ $1/50$ 秒まで同調し、それ以上の高速では撮影出来ません。
- (b) レバーをMに合わせておいた場合  
セクター全開より20ミリセカンド前に※



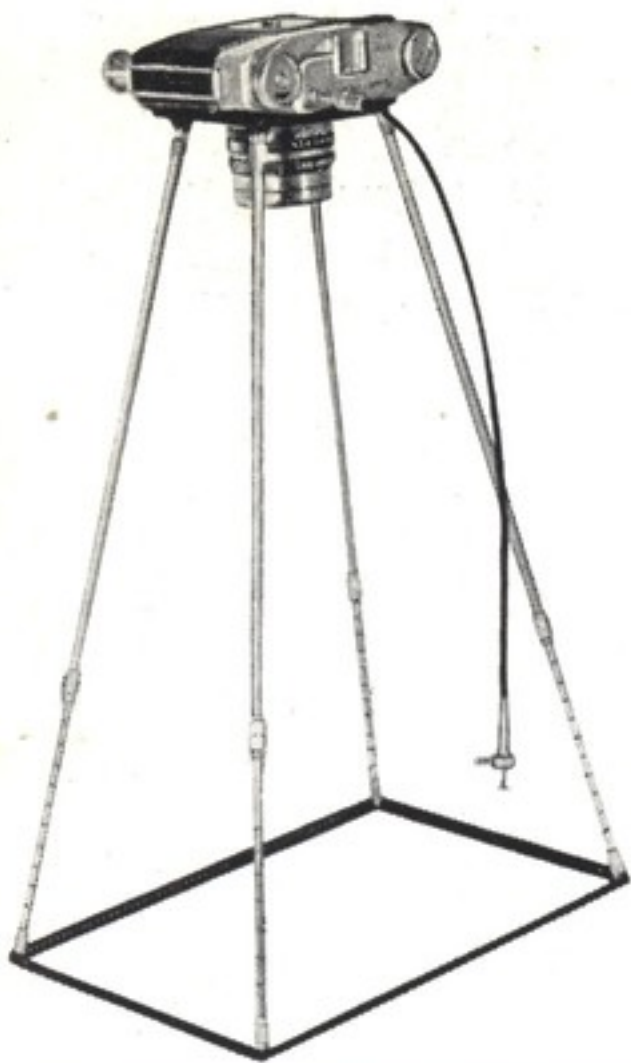
シンクロプラグ

接点切換レバー

※スイッチが入ります。

この場合には  
Mタイプバルブには全速度同調  
Fタイプバルブ・ストロボライトには同調しません。

- (c) レバーをFに合わせておいた場合  
セクター全開より約4ミリセカンド前にスイッチが入ります。  
この場合には  
Fタイプバルブは1秒～ $1/100$ 秒まで同調  
Mタイプバルブは1秒～ $1/25$ 秒まで同調  
ストロボライトには同調しません。



## フィルター

43mmねじ込み型専用フィルターUV,  
Y2, スカイライトがあります。



## マガジン P 型

マガジンとパトローネ両者の特徴を採り入れた  
オリンパス35用マガジンP型を御使用になると暗  
室装填用フィルムの御使用に便利です。

## オートアップ

80cm から 40cm までの接写が出来ます。

## 接写装置

文書・図書の複写用, その他一  
般の接写用として使用法簡易, 携  
帯に便利な接写装置です。このⅢ  
型は S II 1.8 及びワイドスーパー  
にも共用出来ます。



## フード

45mmかぶせ型専用フード  
を準備しております。

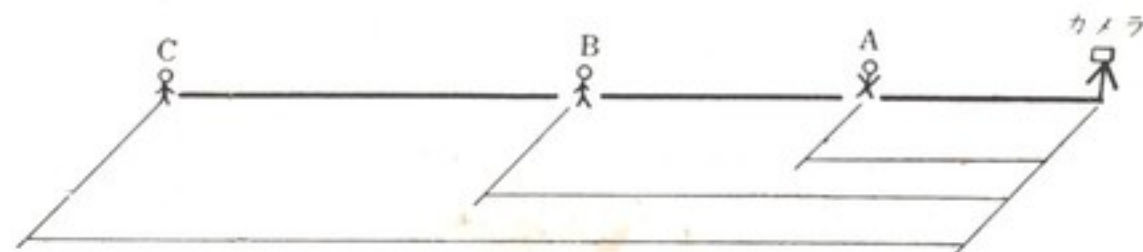
**OLYMPUS ACCESSORY**

撮影に必要な附属品は  
別に発売しております

## 被写界深度



ある被写体に対してピントを合わせた場合、その被写体は最も鮮鋭に写り、その前後の被写体はボケて写ります。



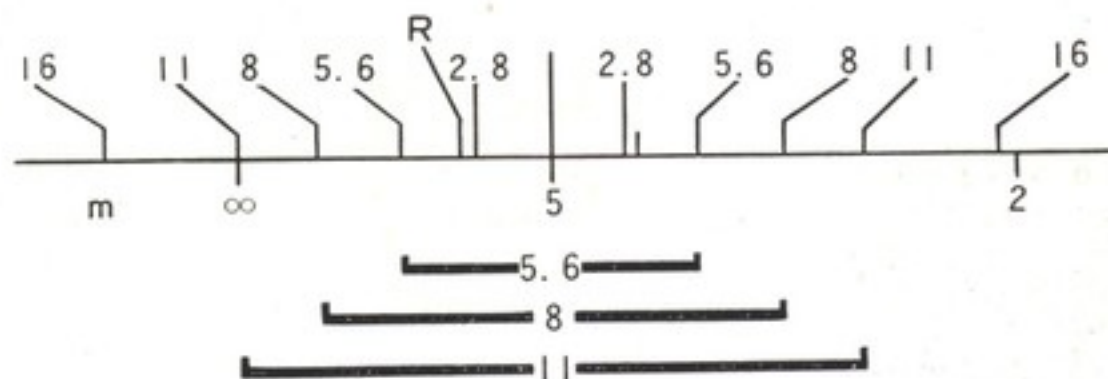
例えば距離の異なる処にA, B, C, 3名がいたとします。カメラのピントをAに合わせれば、B, CはボケBに合わせればA, Cはボケル筈です。又Cに合わせればA, Bはボケます。

併しこれは理論上のことで、実際にはボケにも程度がありますから、実用上ボケているとは見られないボケを許しますと、この3名のうちBにピントを合わせた時、A, Cもボケないという範囲が考えられます。

この範囲を被写界深度と呼んでいます。この時BからAまでを前方の深度、BからCまでを後方の深度といいます。

この被写界深度は、レンズの焦点距離や絞りによってかわりますが、この範囲が広いことを深度が深いといい狭いことを深度が浅いと呼んでいます。

一般にレンズの焦点距離が短かければ短い程、又絞れば絞る程被写界深度は深くなります。この被写界深度を、一眼で分るようにしたのが深度目盛環で、これを分り易くしたのが次の図です。



深度目盛環の中央にある白線は焦点調節環とシャッター調節環を合わせる基準です。

この白線の両側に同じ数字が並んでいます。これは絞りの数字です。

そして上から見て左側の数字はその数字にレンズを絞った時の後方の深度の極限を右側は前方の深度の極限を示しています。

今距離が5メートルにあっていて、絞りを8に絞った場合を見てみましょう。左の8は無限遠を右の8は2.45メートルを指しています。

この場合の被写界深度は2.45メートルから無限遠までということになります。

つまり必要な絞りの左右の目盛がはさむ焦点調節環の目盛の範囲が被写界深度ということになる訳です。この深度目盛環をお使いになれば被写体の前後どの位いの範囲までがはっきり写るかも分りますし、又距離の異なる2つの被写体を両方ともはっきり写りたい場合にどこにピントを合わせてどれだけ絞ればよいかも分ります。即ち2つの被写体の距離が深度目盛環の左右の同じ数字で挟まれるように焦点調節環を調節して、その挟んだ数字まで絞ればよいわけです。

## 速写ケースの扱い方

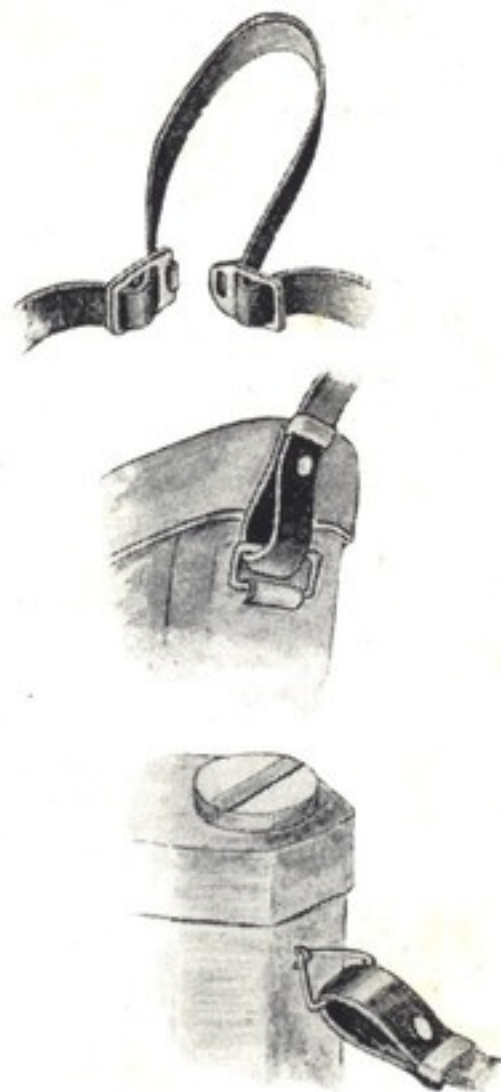
オリンパス S II 2.8 の速写ケースは表面に縫目のないスマートな型態で、前蓋取付も、縦位置撮影の際、絶対に失敗のない様に工夫されています。

裏蓋上の露出計算盤も速写ケースに入れたまま自由に操作出来ます。



## オリンパスカメラ

吊革の装着及調節金具  
吊環の使用法



吊革の長さを調節するため調節金具を適当な位置に掛けて下さい。

速写ケースの吊革は抑え金具を引き上げますとケースから取りはずせます。

取りはずした吊革は写真のようにカメラの吊環にも取りつけられます。

## 御 注 意

- ① レリーズボタンは、極めて静かに押して下さい。シャッターの開いた瞬間にカメラが動くとピントの良い写真はとれません。
- ② 撮影時以外は、レンズにレンズキャップを被せておいて下さい。又UVフィルターを常時御使用になっても結構です。  
但し撮影する時にキャップの取外しをお忘れなく。
- ③ カメラはホコリと湿気を嫌います。
- ④ フィルムを装填したまま半年も放っておくと結果は思わしくありません。撮影後1週間位の間に現像されるのが理想的です。
- ⑤ レンズに指先をふれぬこと。  
レンズについたホコリは清潔な軟い羽根の先ではじきとばして下さい。  
誤って指紋をつけた時は直ちによく洗ったのりのついていない清潔な軟い木綿布で拭いて下さい。放置するととれなくなりませす。レンズ拭のよごれたものや麻や絹布はかえって禁物です。
- ⑥ レンズに糸状のカビが発生したら信用ある光学工場て掃除して貰って下さい。
- ⑦ カメラを海水に落した時は、すぐに清水で洗って、即刻修理にお出し下さい。

## 品 質 保 証

オリンパスカメラは、総て、お買上後3ヶ年の品質保証をいたします。

何卒オリンパスカメラを生涯の愛機として御使用の程御願ひいたします。

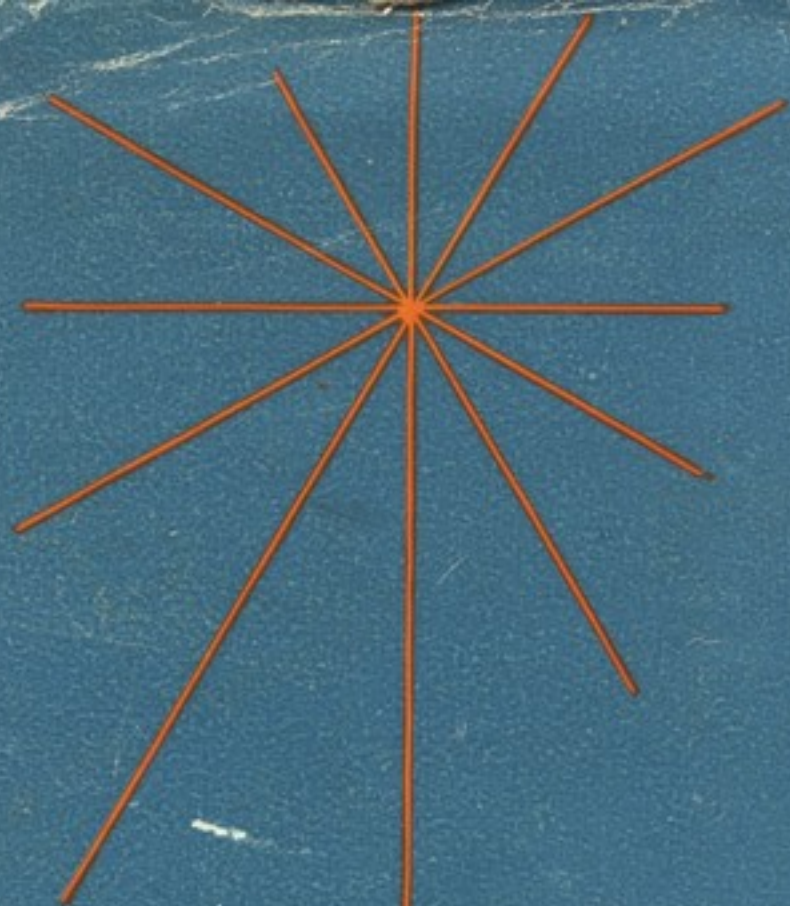
尚保証期間の経過後、若しくは保証適用外の事故についても、実費で迅速確実に修理いたします。

念のため、あなたのカメラ番号を控えておきましょう。

レンズ No.

ボディ No.





オリンパス光学工業株式会社

本社 東京都渋谷区幡ヶ谷原町845

電話 東京(37)代表 5 1 5 1 - 8

営業所 東京都中央区銀座東1の2

電話 サービス(56) 1854、業務・宣伝(56) 1855